



# 報 會 同 窓 商 和 法 人 社 団



(新和商)

(旧和商)

(発行所) 和歌山市砂山南3丁目3-94 県立和歌山商業高校内 Ⅲ36-6456 発行人 村垣龍男(第12号) 昭和58年3月1日(火曜日)

## 三次産業への対応 商業高校の進路

校長の三宅秀彦

三宅秀彦



昨年の四月に県和商の校長として着任いたしました三宅秀彦でございます。

もともと早くごあいさつ申し上げますが、適当な機会がなく今日になった次第で申訳なく衷心よりお詫びを申し上げます。

本校は来年は創立八十周年を迎えようとする伝統ある学校であり、私といたしましてはその重責を痛感いたしておる次第であります。

卒業生の数二万名を数え和歌山は勿論京阪神及び全国において重要な位置を占め活躍されておられる状況の中で、如何にしてこれらの先輩諸兄に続く立派な人材を養成し、県和商の名に恥じない生徒を育成していくか、考えれば考える程その重責に自己の力のなさを悔む思いであります。

しかし、幸いにして本校には優秀な教職員が揃っており、皆様の御期待に添いたいと考えております。

往年の県和商といえ、下の優秀な人材が集まり、学業においても、競い合っても、はたまたスポーツにおいても、県和商の名を県下は勿論、全国にひびかせたものと聞いております。その証拠の優勝旗やカップが応接室にとろ狭しと飾ってあります。

この先輩が築いてくれた輝かしい栄誉を、十分に知り誇りとし、先輩に負けない社会人として、知識・技術・礼儀・マナー等を身に付ける教育を強力に進めてまいりたいと考えております。

昭和三十七年頃より高度経済成長に伴い社会一般に於いて高学歴志向の傾向が顕著となり、そのため従来商業高校に入学した男子が普通高校から大学への道を選ぶようになり、昭和四十二年頃より男女比が逆転し、以後女子が年々増加し、今日では大都市の商業高校の生徒の男女比は一〇対九〇が一般的となっており、本校においても昭和五十七年度は二対七八という状態にあります。

経済社会の第一線で活躍する人間の育成を目指す商業高校の生徒の約八〇パーセントが女子である現状は

何としても改善されなければならぬと考えます。したがって商業高校から大学へ進学する道を大きく開き、意欲と適性のある男子が多数商業高校に入学するよう数年来運動が続けられてきました。その結果

昭和六〇年度より実施の国立公立大学共通一次試験に「数学Ⅱ」の代りに「簿記会計Ⅰ及びⅡの前半」を選択受験できることが決定されました。

この措置により商業高校から国立公立大学へ進学することが容易となるわけであり、更に旧制の高等商業学校から大学になった一〇大学のうち六大学が商業高校生のために推薦入学制を採用しています。このことは将来更に拡大される傾向にあるので、商業高校

「一つ釜の飯を喰った仲」にはお互にそれぞれの繋がりをもっているものです。親子、兄弟姉妹、夫婦などは勿論ですが他人同志でも幾つかの輪をなしています。例えば職域、趣味、年令等さまざまですが、同じ学校から大学へ進学することは

社会一般の認識は大幅に訂正されることになると思われます。このようにして商業高校の男女生徒比の是正に少しでも役立つ方向で今後共運動を進めてまいりたいと考えておる次第であります。

就職については年々厳しくなっておりますが、和商の伝統のお蔭で、即ち先輩諸兄の七光り、実績がもたらす自信と誇りを持たせ、生徒に自信と誇りを持たせるために職業資格に関する各種の検定試験を受験させることも、急速に発展する第三次産業にどのように対応するかということに、今後真剣に検討すべきものと考えております。

何卒母校和商の発展のため、同窓生と有難いもので、幾年も会っていない顔も、同窓生お互いの消息が判っているというところは何かにつけて便宜があり心温まるものがあります。その消息を把握して下さい。

同窓会本部所在地 和歌山市砂山南三丁目三九四、県立和歌山商業高校内、電話〇七三四一三六―六四五六

「一つ釜の飯を喰った仲」に学んだ者たちにとっては、を合わせば瞬時にして手をまた着しいものがあります。握りあえるもので、その当り即ち同期生であり同窓生で、時の年令にまで何の抵抗もす。いわゆる一つ釜の飯をなく逆行するからなので、喰った仲間です。和商同窓会。

この措置により商業高校から国立公立大学へ進学することが容易となるわけであり、更に旧制の高等商業学校から大学になった一〇大学のうち六大学が商業高校生のために推薦入学制を採用しています。このことは将来更に拡大される傾向にあるので、商業高校

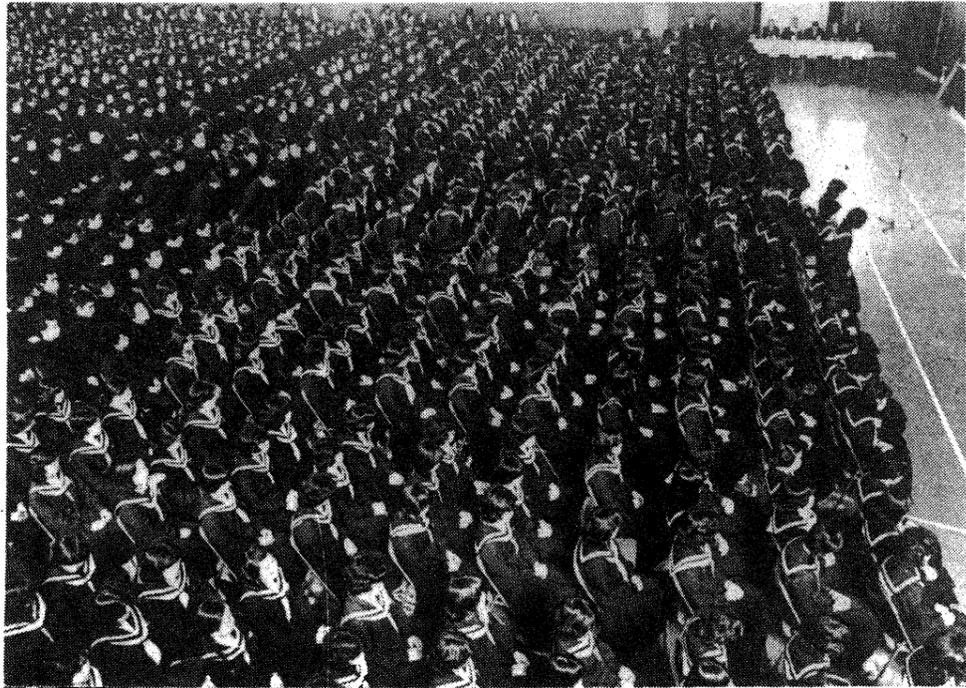
「一つ釜の飯を喰った仲」にはお互にそれぞれの繋がりをもっているものです。親子、兄弟姉妹、夫婦などは勿論ですが他人同志でも幾つかの輪をなしています。例えば職域、趣味、年令等さまざまですが、同じ学校から大学へ進学することは

社会一般の認識は大幅に訂正されることになると思われます。このようにして商業高校の男女生徒比の是正に少しでも役立つ方向で今後共運動を進めてまいりたいと考えておる次第であります。

就職については年々厳しくなっておりますが、和商の伝統のお蔭で、即ち先輩諸兄の七光り、実績がもたらす自信と誇りを持たせ、生徒に自信と誇りを持たせるために職業資格に関する各種の検定試験を受験させることも、急速に発展する第三次産業にどのように対応するかということに、今後真剣に検討すべきものと考えております。

何卒母校和商の発展のため、同窓生と有難いもので、幾年も会っていない顔も、同窓生お互いの消息が判っているというところは何かにつけて便宜があり心温まるものがあります。その消息を把握して下さい。

同窓会本部所在地 和歌山市砂山南三丁目三九四、県立和歌山商業高校内、電話〇七三四一三六―六四五六



## 雪の輪のひろがり

同窓会お互いの消息が判っているというところは何かにつけて便宜があり心温まるものがあります。その消息を把握して下さい。

同窓会本部所在地 和歌山市砂山南三丁目三九四、県立和歌山商業高校内、電話〇七三四一三六―六四五六

同窓会本部所在地 和歌山市砂山南三丁目三九四、県立和歌山商業高校内、電話〇七三四一三六―六四五六

同窓会本部所在地 和歌山市砂山南三丁目三九四、県立和歌山商業高校内、電話〇七三四一三六―六四五六

## 会館建設へのねがい

### 定款にも謳う

社団法人和商同窓会定款は第六章より成っています。

第一章 総則

第二章 役員及び職員

第三章 役員及び職員

第四章 資産及び会計

第五章 定款の変更

第六章 定款の変更

この定款は従来和商同窓会会則と称していましたが昭和二十九年に会長や役員方が当時会長代理をされていた旧和商十四期生の故北島又右エ門氏に依頼されて同窓会を法人にするための前提として作成され、翌三十年に法人設立の申請をし同年七月社団法人和商同窓会として発足し現在に至っています。

今日までの長い歳月の間に

同窓会本部所在地 和歌山市砂山南三丁目三九四、県立和歌山商業高校内、電話〇七三四一三六―六四五六

# 誇る同期の団結

## 「あれから五〇年」 アルバムも発行す

理事 宮崎善進



昭和十二年七月七日満洲事変が突発したので兵役義務の強化のため満洲隊と同様に応召となり、以後東亜戦争へと引き続いたので多数の戦死者や物故者を出した。現在僅か半数の五七名となりました。

終戦後は戦災等で散り散りになった同期生の所在を探るのが大変でした。そのため各出身小学校の同期生の家を尋ねたり、関東、関西方面の和商出身者を訪ねる等苦労のうえ、ようやく現在の生存者を知り得た訳です。

同期生の変り種といえは教育関係では法政大学教授を定年退職後近畿大学の経済学教授をしている宇治田君、和歌山刑務所の女性収容者が更正に努力する姿を正しく理解してもらったため「母の詩」を作り浦島直正君(和歌山県興業協会常務理事)の協力で視聴覚教育(映画等)のボランティア活動団体の会長を勤めている吉方徳一君等々です。

私達同期生は過去二〇年間毎年六月の「父の日」を

会合日として二〇名余りの者が新和歌浦のすし由樓に集りおたがいの健在と親睦を確認しあっているためか団結が非常に強く、十二年前にすし由樓が火災に遇った時も同期生全員が救済の友情カンパを行い失意の社長を激励し再建に協力いたしました。

私達も古稀を迎えてから三年が過ぎ今年卒業後五〇年目に当たりますので記念行事として「あれから五〇年」と題してアルバムを発行いたしました。その内容は先づ旧校舎の全景写真を初めとし校旗、校門、本館及び当時の恩師と二二名全員の卒業時の顔写真を載せ、現在健在中の者のカラー写真等を収録しました。

尚、記念行事の締めくく



りとして五八年二月三日(白浜温泉で家族同伴の泊の記念総会を盛大に開催)いたしましたがこの事について後日皆様にお知らせしたいと思います。お祈りしております。

三年生大畑郎防空壕内

## 校誌 母年代誌 昭和20年以降

- 私達二七期生は最後の一人までこの団結を続けることを誇りとしています。
- 百二十七期
- 三月三日 第四二回卒業証書授与式挙行。卒業生六二名
  - 三月五日 和歌山県立和歌山商業学校併設中学校を設置し昭和二一年四月県和商第一学年に入学した者を第二学年に編入する。(本年度県和商第一学年の募集なく、新制中学校第一学年へ入学する)
  - 昭和三年(一九四八年) 第三三回卒業証書授与式挙行。卒業生一〇〇名
  - 内希望者は新制高等学校第三学年へ編入される。
  - 三月三十一日 学制改革により自然廃校となり生徒は全部新制高等学校へ編入される。
  - 四月二七日 校舎は県立星林高等学校の校舎となる。
  - 昭和四年(一九四九年) 新制高等学校第二学年に編入された者の中で旧制中等学校卒業(五年卒)の資格を希望する者については現在在籍する高校において旧制中学の卒業証書を授与することが出来るとの指示により星林高校で旧制和商卒業証書を授与する。二二名
  - 第四四期生である、但し桐蔭高校、海南高校には希望者なし。
  - 三月五日 終戦の勅諭降る。動員及び応召解除される
  - この時生徒定員七五〇名
  - 昭和二年(一九四六年) 三月二五日 第四一回卒業証書授与式挙行。卒業生一四四四名
  - 但し四年修了者の内希望者は五年に残る(第四二期生)になる
  - 昭和三年(一九四七年) 三月 新教育制度発表され新制高等学校制度発表のため卒業生より寄附を募る(募金は星林高校商業科設備充実に充たし、後日和商高に引継がれた)
  - 三月二日 第四三回卒業証書授与式挙行。卒業生一〇〇名
  - 内希望者は新制高等学校第三学年へ編入される。
  - 三月三十一日 学制改革により自然廃校となり生徒は全部新制高等学校へ編入される。
  - 四月二七日 校舎は県立星林高等学校の校舎となる。
  - 昭和四年(一九四九年) 新制高等学校第二学年に編入された者の中で旧制中等学校卒業(五年卒)の資格を希望する者については現在在籍する高校において旧制中学の卒業証書を授与することが出来るとの指示により星林高校で旧制和商卒業証書を授与する。二二名
  - 第四四期生である、但し桐蔭高校、海南高校には希望者なし。



松・柳「第三の時期は昭和四十一・二年からはじまっています。現在のみんながこの第三の時期を背負って立っているのです。見事できあがったこの学園に、魂をこめての仕事を。現在在学中に在る諸君の中に和商の生徒になりきっていない生徒があるのではないのでしょうか。入学の動機は自己の意に反し、他から奨められたものであっても入学した以上、卒業後生涯よるべしとしなければならぬのは和商であり、和商の同窓です。一刻も早く和商の生徒になりきってほしいことです。み

た目まぐるしく進展して止まない業界で、流通機構がどんな役割を果たし、機能を発揮しなければならぬかの要請にこたえる

松・柳「第三の時期は昭和四十一・二年からはじまっています。現在のみんながこの第三の時期を背負って立っているのです。見事できあがったこの学園に、魂をこめての仕事を。現在在学中に在る諸君の中に和商の生徒になりきっていない生徒があるのではないのでしょうか。入学の動機は自己の意に反し、他から奨められたものであっても入学した以上、卒業後生涯よるべしとしなければならぬのは和商であり、和商の同窓です。一刻も早く和商の生徒になりきってほしいことです。み



母校教諭 蔵垣新之介記

## 新制和商の生いたち

### 若き日の思い出

ではいせん。この消費者は経済の王様といわれています。しかし現実には消費者はまだまだあやつられ、おどらされているピエロの域を脱して

さらけにみんなの意気が内にあるすべてのものに、机や椅子は勿論のこと、草木にいたるまで愛着が感じられてきました。

本校はどこに出してもひけをとらない立派な学校になりました。

ただいまの三ヶ年だけが和商生であるといった単純な考え方はなしに、和商が長く限り和商の歴史の担い手の一員であることを自覚して頑張りた

